

○議長（黒沢義久君） 日程第１，一般質問を行います。

昨日に引き続き，通告順に発言を許します。

６番深谷秀峰君の発言を許します。

〔６番 深谷秀峰君登壇〕

○６番（深谷秀峰君） おはようございます。６番深谷秀峰です。通告に従い，私の質問をさせていただきます。

まず初めに，施政方針についてお伺いいたします。今回提出されました平成２１年度施政方針について，その中から２点について市長にお伺いしたいと思います。

１つ目は，少子化対策です。施政方針の中では，経済的負担の軽減を図るため，「不妊治療費助成制度」の創設や，健やかな妊娠と出産ができるように「妊婦健康診査の助成」を１４回までに拡大，１歳未満の乳児に対し，おむつ購入費用を助成する「乳児おむつ購入費助成」の創設，保育料の軽減を図る「ひたちおおた３人っこ家庭応援事業」の実施，医療費負担軽減のため，「中学３年生までの医療費助成」の拡大など，これまで行ってきた事業の拡大や新規の取り組みなどが示され，現在の予想をはるかに超える急激な少子化現象に少しでも歯止めをかけるため，いろいろな角度から少子化対策に取り組んでいこうという考えが見受けられます。

しかし，それ以前の問題として，いかにこの常陸太田市に若者が定住し，お互いのパートナーを見つけ結婚するかという大前提が必要になってくるわけであります。こうした若者定住策や結婚問題は，少子化対策の入り口であると同時に最も難しい問題で，なおかつ決して避けては通れないことと思いますが，この点について市長のお考えをお伺いしたいと思います。

また，若い世代の市外への人口流出が最近多くなっているように思われてなりません。特に，結婚を機に，近隣市町村に居住地を移す人が増えてきているのではないのでしょうか。このような子育て世代の市外への流出をどのように防いでいく考えなのかお聞きしたいと思います。

次に，施政方針についての２点目です。雇用対策についてお尋ねしたいと思います。

百年に一度の不況とも言われる現在の国内外の経済危機によって，我が国でもリストラに遭う人の数は１０万人を超えるのではないかと予想され，政府もようやく大規模な予算を投入し，景気対策・雇用対策を打ち出したところであります。

施政方針の中で，本市における雇用対策として，金砂郷・水府・里美地区の「市有林現況調査事業」，不法投棄ごみ回収やごみマップ作成などの「不法投棄廃棄物除去事業」，観光振興イベントの企画運營業務などの「常陸太田魅力アップにぎわい交流推進業務」，市内物産品の販売調査等をする「観光土産品等販売促進戦略研究業務」などを行い，新規雇用創出を図っていくとあります。これらの事業を通して，一体どれくらいの期間，どれくらいの新規雇用が図られ，そのことでどのような波及効果が得られると考えているのか，お伺いしたいと思います。

次に，公共交通体系の整備についてお尋ねをいたします。

市民の生活の足として，公共交通の果たす役割は大変大きなものであり，特に交通弱者と言われる子どもやお年寄りにとってはなくてはならないものであります。これまで長い間地域公共交通の柱であった民間会社による路線バスは，全国各地の過疎地域において，赤字路線の増加によ

る経営難でその多くが路線の廃止や撤退の危機にあると言えます。

本市においても、今まで路線バスの中心であった茨城交通が、その経営難から昨年１１月、「民事再生法」の適用を受けたばかりで、路線は維持されるものの、今後に大きな不安を抱えたと言えるのではないのでしょうか。

そこで、現在の本市における公共交通の中で、茨城交通の路線バスの運行状況・利用状況で特徴的な具体例について示していただきたいと思います。また、路線バスを維持していく上で、かなりの財政支援を行っていかねばなりません、支援の意義について考えをお聞きしたいと思います。

あわせて、路線バスを補完する意味で始まった市民バス、予約型乗り合いタクシー、里美地区の「うぐいす輸送」について、それぞれの運行状況・利用状況についてもお尋ねをいたします。

もう一つ、以前、私も一般質問で取り上げた高校生の通学の足の確保については、その後どのように検討されているのかもあわせてお聞きしたいと思います。

次に、山の土地利用についてお聞きしたいと思います。

まず、ハイキング道の整備についてであります。本市は、阿武隈山系の南端に位置し、各所にハイキングやトレッキングに適した場所が多数あり、そのためかここ数年、四季折々を通して山を歩きながら自然に親しむ目的の入込客がかなり増えてきているように感じます。私自身も休日になると、近くの登山道に向かう団体客の姿をよく見かけることがあります。市当局としては、このようなハイキング目的の入込客の状況はどの程度把握しているのか、また、ハイキング道の整備や管理については、現在どのように行っているのかお尋ねをいたします。

そして、今後、ハイキングやトレッキングを１つの観光資源ととらえて、より多くの人を呼び込むためには、市独自のハイキング用散策マップの作成や新しいルートの開拓、山の自然をよく知ってもらいながら、人的交流を図る意味での山のガイド創設なども必要になってくると思いますが、考えをお聞きしたいと思います。

最後に、特産林産物の振興策についてお聞きいたします。

特産林産物とは、ふだん余り聞きなれない言葉であります、簡単に言えば、山林から生産される産物のうち、木材以外のキノコ類や山菜・木炭・竹・キリ・漆などを言うそうであります。全国的に見れば、これらの産物を既に地域の産業として確立しているところも数多くあります。

その中でもユニークな例としては、徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」が最も有名ではないでしょうか。これは、典型的な過疎の山村が、山に自生している葉っぱを全国の高級料亭などに料理のつま物として出荷するビジネスで、地域のお年寄りたちが毎朝自宅の専用パソコンでその日の相場を調べ、単価の高い葉っぱを集めてくるそうですが、驚くことにその収入は、少ない人で月２０万円、多い人で８０万円も稼ぐそうで、年収にすると１、０００万円を超えるお年寄りもいるそうであります。

こうした例は特異な例かもしれませんが、特産林産物についてはまだまだ未開拓の部分もあって、面積の約７割が山林という本市においては、これからの取り組み次第で地域活性化に結びつく分野と言えるのではないのでしょうか。

そこです、現在市内で取り組まれている特用林産物の生産の現状について、どの程度把握しているのかお聞きいたします。

また、今後の1つの方向性として、遊休農地や耕作放棄地の問題と絡めて、それぞれの地域でいろいろな団体・グループがその地域に合った特用林産物の生産に取り組んでみようというきっかけづくりのための情報提供や財政支援・技術支援については、今後どのように考えていくのかお尋ねをいたします。

以上について、ご答弁をお願いいたします。

○議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

○市長（大久保太一君） 施政方針についてお尋ねがございました。順次ご答弁を申し上げます。

まず最初に、少子化対策の中で、若者の定住化にかかわる施策でございますが、現在、市内の少子化対策プロジェクトにおきまして施策の検討を行っておりますけれども、その中で、これまでの子育て支援策ばかりではなく、子育て世代が市外へ転出していかないように、また、一度転出して戻ってこられるような施策についても検討をしているところでございます。

一端を申し上げますと、平成21年度に建設を予定しております市営磯部町団地の建てかえに当たりましては、若い世代やお子様をお持ちの皆様のご意見をお聞きいたしまして、これを反映した設計をしたところでございます。全6棟15戸のうち、4棟8戸を子育て世代に向け、また、1棟3戸を若者世代向けに建築をすることとしているところでございます。

また、結婚対策でございますが、平成19年度から、より結婚を希望する方の視点で事業が実施できるようにということで、市内のNPO法人に事業を委託してきたところでございます。本年度は5回の交流会を実施してきたわけでありましたが、徐々に事業が認知されてきておりまして、3月1日に実施いたしましたふれあいパーティでは、男女各25名の募集に対しまして、それぞれ50名を超える方の応募がございました。これまでの活動も含めまして、ただいま13組のカップルが交際をしている状況でございます。

本年度より、結婚希望者の登録も開始をしたところであります。「いばらき出会いサポートセンター」等とも連携をとりながら、今後とも、結婚相談事業につきまして力を入れてまいりたいと考えております。

次に、雇用対策についてのお尋ねがございました。「市有林現況調査事業」につきましては、5人で3カ月、「不法投棄廃棄物除去事業」につきましては、14人で6カ月雇用する計画でございます。離職を余儀なくされた労働者に対し、臨時的・一時的なつなぎ就業の機会を提供するものでございます。

効果といたしましては、「市有林現況調査事業」については、管理台帳を作成することなどにより、今後の市有林の健全な管理を図ることができるほか、「不法投棄廃棄物除去事業」につきましては、不法投棄ごみ回収によります自然環境の保全等に資するものと考えております。

また、「常陸太田魅力アップにぎわい交流業務」及び「観光土産品等の販売促進戦略研究業務」につきましては、常勤・非常勤を合わせまして4名程度の雇用を計画しているところでござい

す。これらは継続的で安定的な雇用機会を創出する事業として実施をいたします。

効果といたしましては、歴史的・文化的資源を活用した観光事業、あるいは地域間交流事業の活性化に寄与するものと思っております。

これだけでは雇用の人数は少ないわけでありまして、今後とも昨年１１月に開設をいたしました常陸太田市地域職業相談室も活用しながら、雇用の促進を図っていきたいと考えております。

○議長（黒沢義久君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

○政策企画部長（江幡治君） 公共交通体系の整備についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、茨城交通の路線バスの運行状況でございますが、現在、市内で２１系統が運行してございます。このうち太田営業所を起点とします運行距離の長い主な系統、その１日の往復合わせでの運行便数並びに平均乗車率を申し上げますと、里美地区では、里川入り口までの系統が４便で、平均乗車密度３．９人。小中車庫までの系統が１２便で４．５人。水府地区では、大久保までの系統が３便で１．１人。馬次入り口までの系統が１１便で２．３人。金砂郷地区では、上宮田代までの系統が９便で１．６人となっております。

次に、路線バスに対する支援の意義でございますが、市地域交通計画におきまして、毎日定時に運行する路線バスの重要性からこれを基幹交通と位置付け、また、市民バスや予約型乗り合いタクシーなどは路線バスを補完するものと位置付けておりますことから、基幹交通としての路線バスを維持するため支援を行っているものでございます。

次に、市民バスの運行状況でございますが、現在、大きくは１０コースを週二日、１日２往復、または３往復の運航を行っております。平成２０年１月から１２月までの１年間の利用者数は、全コース合計で４万５,３５８人、１日の平均利用者は１４９人、各コースの１日平均利用者数は４４人となっております。

乗り合いタクシーの運行状況につきましては、常陸太田地区・金砂郷地区・水府地区それぞれの３地区と市街地の間を週１日、１日６便の運行を行っております。

２月末現在の登録者数が４９８人、昨年７月に平成２０年度試行運行を開始しまして、２月までの８カ月の総利用者数は２,６８９人、１日平均４１人、１日当たりの平均利用者数は２．５人となっております。

商工会が運行します「里美うぐいす輸送システム」の運行状況につきましては、昨年１２月末の登録者数が２００人、平成２０年１年間の利用者数は１,０９３人、月平均利用者数９１人となっております。

最後に、高校生の通学のための公共交通でございますが、市内の高校への通学は可能なものの、里美地区・水府地区・金砂郷地区などからＪＲ水郡線を利用し、市外へ通学するために利用可能な公共交通が極めて少ない状況にございます。これまでもバス事業者と協議を行ってきたところでございますが、各路線の運行距離が長く、運行に時間を要することから、対応できていない状況にありますので、今後もバス事業者と協議を続けてまいりますとともに、引き続き対応方法等を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（黒沢義久君） 産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

○産業部長（赤須一夫君） 山の土地利用についての中のハイキング道の整備についてのご質問にお答えいたします。

初めに、現況であります。市内各所に12のハイキングコースがあり、総延長77.6キロメートル、年間利用者は推計で9万3,850人ほどになっております。コースの管理は、随時の路面修理と年二、三回の除草を行うとともに、職員による随時の巡回パトロールを行っております。

次に、「観光資源としてハイキングコースの増設は」とのことですが、近年はグリーンツーリズムの思想も浸透しまして、自然環境をそのまま体験する観光客も増えてきているようです。ハイキングコースを利用する方々の多くは、予定コースを回った後、地元の入浴施設で休憩したり、もよりの物産所に立ち寄り、地場産品をお土産にしたりという姿が多くなってきております。そのため、新たなハイキングコースの開拓や整備に努めてまいります。

今年4月には竜神大橋をスタートに、周辺の山間地を利用して大子町までのトレイルランニングの大会が開かれるなど、新たな魅力のコース展開も期待されておりますので、関係者とともに、トレイルランニングコースの利活用と新たなルートの可能性について研究をしてまいりたいと考えております。

また、訪れる人たちが魅力を感じる自然を保全しながら、ハイキングコースや周辺施設の紹介を合わせた案内マップの作成を初め、案内人の創設をしながら効果的なPRを行ってまいりたいというふうにとらえているところでございます。

また、山のガイドにつきましては、現在、里美地域に森林インストラクターがおりますので、活動状況を調査しながら研究してまいりたいと考えております。

続きまして、特用林産物の振興策についてのご質問にお答えいたします。

まず、特用林産物の生産状況であります。市内の森林資源を活用しましたシイタケの栽培を主に特産品として生産がなされております。シイタケ生産農家数は16件で、販路は公設市場出荷と直売所を通じて販売しております。

シイタケの生産量は、県の林政課の調査によりますと182.4トンとなっております。シイタケ以外のキノコ類の生産状況は、マイタケ、ナメコ、ヒラタケ、エリンギ等が生産されております。生産量はごく少量で自家消費が大半を占めておりますが、一部直売所等を通じまして販売され、消費者に提供がされている状況であります。

キノコ類以外の特用林産物の生産状況につきましては、葉ワサビ、ワラビ、タラノメなどの山菜や木炭などが生産されておりますが、いずれも生産量は少量であり、それぞれ直売所、あるいはイベント等で販売している状況でございます。

次に、特用林産物の振興策であります。総合計画基本構想の中で、山の土地利用の施策として特用林産物などの進进行を図ると掲げておりますので、地域の特性を生かした特用林産物の生産振興の起爆剤となるようなモデル実証展示園を設け検証してまいります。

現時点での類似取り組みとしましては、里美地区河原森林環境整備クラブによる葉ワサビの栽培、小妻地区里山林間活用グループによる、行者ニンニク、ナメコ栽培に取り組んでおります。

今後におきましても、森林・林間・里山等の地域資源を利活用した市民協働による元気の出る事業を積極的に推進してまいります。

また、地域特産物を活用した都市との交流につきましては、地産地消推進事業、グリーンツーリズム、イベント事業等を通じて展開をしてまいります。特産品の生産流通、都市交流事業は喫緊の課題として推進してまいります。

以上でございます。

○議長（黒沢義久君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

○政策企画部長（江幡治君） 先ほどの公共交通関係の中の乗り合いタクシーの運行状況の答弁の中で、1日当たりの平均利用者2.5人を「1日当たり」と答弁をしましたので、「1台当たり」と訂正させていただきます。

○議長（黒沢義久君） 6番深谷秀峰君。

〔6番 深谷秀峰君登壇〕

○6番（深谷秀峰君） 要望と再質問をあわせて市長に何点かお聞きしたいと思います。

まず、少子化対策であります。昨年、私どもの会派で、栃木県鹿沼市の少子化対策を研修してまいりました。鹿沼市も隣接する宇都宮市に多くの若者が転出し、急激な少子化を招いているということで、平成18年度から全国に先駆けてつながりのある総合的な少子化対策に取り組んでまいりました。丸2年をかけ、ようやく効果があらわれ、平成19年度の統計では、月平均2.8人の増加が認められて、成果が出たと言われております。

その目玉として、鹿沼市では第3子対策事業ということで、「出産」に対する支援、「保育費」の負担軽減、子育て世代に対する「経済的支援」、仕事と子育ての両立「企業支援」、「住まい」に対する支援、5部門で全22事業に取り組んでいるそうであります。

本市においても、今回提示されました子育て支援策、鹿沼市と同じかもしくはそれ以上の事業もありますが、唯一足りないのが、「住まい」に対する支援であります。

鹿沼市では、結婚して鹿沼市に住んだ場合に、その家庭に対して住宅の助成をしたり、または、他の市町村から移り住んだ場合の支援もしております。本市の現状を考えた場合、どうやって他市町村に転出していく若い世代・子育て世代を食いとめていくかが、もしかすると最も大きな少子化対策になるのではないかと思うわけであります。

居住地選択の自由という点には十分承知の上であえて言わせていただきますが、市の職員の若い方たちがどうして他の市町村へ行ってしまうのか。裏を返せばそこに少子化対策の大きな問題があるのではないかなと思っております。住居などの絶対的な数が少ないのか、教育環境なのか、それともその他いろいろな外的要因が起因しているのか、これについて、ぜひとも市長のお考えをお伺いしたいと思います。

次に、山の土地利用についてお尋ねをいたします。

先日、キリンホールディングス会長の荒蒔康一郎氏の寄稿文が茨城新聞に掲載されておりました。荒蒔氏は旧里美村出身で、この常陸太田市の大先輩でもあります。氏の寄稿文の中で非常に気になった部分があります。氏のおっしゃることには、「ふるさと常陸太田市のこれからの振興策の1つとして、ぜひとも自然を生かした取り組みの必要性を見直してもらいたい」とありました。それを読んで、私は今回ハイキング道の整備と特用林産物という項目で質問させていただきました。

非常に前向きなご答弁をいただいたわけですが、例えば、ハイキング道の整備にしても、そこに来た人たちがハイキングだけで終わるのではなくて、先ほど答弁にもあったように、近くの温泉施設に入浴してお土産を購入して、なおかつ地域の人と交流して、この常陸太田市を第2のふるさとと思えるような、そういう連携のある取り組みをぜひともしてもらいたいと思うわけですが、この点についても市長のお考えをお伺いしたいと思います。

もう一つ、特用林産物であります。市長は、前々から市内各地をよく歩いていると聞き及んでおります。当然市内のあちこちの山もごらんになっていると思いますが、このふるさと常陸太田市の山は、まだまだ大きな可能性を秘めているのではないのでしょうか。その1つが今回私が質問しました特用林産物であります。

先ほど質問の中で言いました徳島県の上勝村。おばあさんが1,000万円を超える収入があるというのはだれが見ても驚きであります。これもたった一人の農協職員がたまたま行った高級料亭で、ある女性が刺身のつまをじーっと見ているのを気になって、これはもしかしたら商品になるのではないかなと、それがきっかけだということであります。

もしかすると、この常陸太田市にも、我々が気づいていない山の恵み、山の産物、そして、もしかしたら地域の活性化の起爆剤になるような物が隠れているのかもしれない。この点について、市長が今まで市内のあちこちの山を歩いてきた経験の中で、「これは」というものがあればぜひお示しいただきたいと思います。

以上、3点を質問いたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

○市長（大久保太一君） まず最初に、少子化対策について、特に住居に対する行政としての支援策その他を中心としたお尋ねがございました。

住居につきましては、他の市町村でも、例えば子育て中の第2子、第3子がいる場合の市営住宅・町営住宅等への入居費用を助成するとか、いろいろな手を打っている市町村を承知しております。先ほど申し上げました少子化対策プロジェクトの中で、そういう施策についても今後検討していく必要があるだろうというふうに考えているところであります。

市職員が結婚すると外へ出ていってしまうというようなことでありますが、ほとんど市職員が結婚いたしますときに私は招待を受けて行きまして、1件1件確認しておりますが、出ていく人たちは、共働きで片方が水戸とか勝田あたりに勤めている人、そしてまた、片方は常陸太田市に職員として勤めているような人、そういう方にとっては、どうしても奥さんのほうの通勤距離と

か、そういうことを考えた上での居住地の選定ということが中心になっているようであります。必ず祝辞の中では当市へ戻ることを薦めながら話をしているという状況でございます。

いずれにしても、当市の少子化対策につきまして、今回ご提案を申し上げておりますさまざまな支援策等を総合いたしますと、決して他の市町村に劣っているというふうには考えておりません。深谷議員ご指摘のように、住宅政策についてはまだこれからという状況でありますので、対策プロジェクトの中で検討を進めていきたいと思っております。

それから、山の土地利用につきまして、当市が恵まれた自然ということは1つの大きな資源になっているわけでありまして、これらをそういう資源のない地域の人たちにアピールすることによって、そしてまた、迎える側としてもさまざまな体験メニュー等を踏まえながら、交流人口の増加に結び付けていきたい、そういうふう考えているところであります。

中でも、農山漁村青少年の交流プロジェクトとか、既に昨年、里美地区・水府地区ではそういう受け入れ体制もできてまいりました。要はいろんなメニューをいかにPRして、そしてまた、受け入れサイドの体制をどう整えるかということが大きな課題だと思っております。それらを踏まえて、自然を利用した交流人口の増加に努めてまいりたいというふうに思うところであります。

3番目に、特産林産物について何か生かせるものはないのかというお話であります。先ほど産業部長が答弁いたしました、現在、当市内にあります特産林産物について、これをまずは地産地消ということ、そしてまた、さらに販売状況等によっては増産をするような手だてをしていくことが一番近道といたしますが、実現性のあるやり方じゃないだろうかと考えているところです。

特に地元ではよく認識されておりましたが、常陸太田市産のシイタケについては、よそから来た人には大変な評判であります。特に、どんこって言うんでしょうか、あれを焼いたものについては、若者も含めて称賛をいただいている。そんなことをもう少しPRをして、外に出していくようなことをやっていくべきじゃなかろうかと。

繰り返しになりますが、まずは食料自給率を向上させる観点からも、この地産地消の中でそれを大きく取り上げて進めたいと思うところであります。

以上でございます。